

お酒に関する注意事項

■ 未成年者は飲酒しない、未成年者に飲酒させない。未成年者の飲酒を傍観しない。

心の問題だけでなく、脳、肝臓、生殖器などにも大きなダメージを与えるので、未成年者の飲酒は法律で禁止されています。未成年者の飲酒を知っていて制止しなかった成年者は、罪に問われる場合があります。未成年者が出席する懇親会にはお酒を用意しないなど、未成年者がお酒に触れる機会を作らないような対策も考えましょう。

■ 飲酒強要（アルハラ）や一気飲みはしない、させない。

飲酒を強要したり、はやしたてるだけでも、刑事・民事責任を問われることがあります。急性アルコール中毒で死亡した場合、傷害致死罪等に問われる場合があります。ひとりひとりの飲酒するペースを尊重してください。

酔いつぶれたひとが出たなら、

- 絶対にひとりにしないで、責任を持って介抱する。（トイレ、帰宅時も必ず付き添う。）
- 体温の低下を防ぐため、毛布等をかけて暖かくする。
- 衣服を緩めて楽にする。
- 吐物による窒息を防ぐため横向きに寝かせて、吐きそうなときは、横向きの状態で吐かせる。
抱き起こして、無理に吐かせると、吐いたものが逆流してノドに詰まり、窒息することもあります。
横向きにすると、吐物が自然に口から出て、窒息を防ぐことができます。



こんなときは迷わず救急車を呼ぶ

- 体温が低下して全身が冷たい。
- 名前を呼んだり、身体をゆすっても反応しない。
- 息苦しそうにしていたり、大いびきをかいている。
- 口からあわをふいたり、大量の血を吐いた。

名前を呼んだり、身体を揺すっても反応のないときは、こん睡状態で、「死」と紙一重の状態にあります。わずかなためらいで、助かる命も助からなくなってしまうかもしれません。体面を気にせず、すぐに救急車を呼んでください。

